西胆振地域連携研修・法人内研修　実施報告書

研修名	令和４年度入社職員フォローアップ研修（１年後編）

対象者	令和４年度新人研修受講の職員
日　程	令和５年８月１日（火）～2 日（水）
会　場	財田の杜 研修センター

研修のねらい

入社から 1 年が経過します。日々の業務の中で習得した知識や技術を確認する機会とし、介護職員として更に実践力を高めることができるようフォローアップします。また、仕事の内容や状況を相互に情報交換し、互いの理解を深める中で自己や仕事に対する悩みや戸惑いを払拭し、仕事に対する姿勢、仕事へのモチベーションを高める機会とします。

１日目				
時　間	研修科目	講義形式	講師	研修内容
9:00～10:20（80 分）	法人理念と職業倫理	講義・演習	ケア）クアリゾート４５３ 室橋生活相談員	理念の理解、援助者の基本態度や秘密保持、利用者の主体性、人権の尊重、専門性の向上など介護職員として必要な職業倫理について学びます。
10:30～12:00(90 分)	認知症対応力向上	講義・演習	特養）大原・財田の杜 吉田施設長	原因疾患の理解と中核症状の医学的・心理的理解など認知症の人を多角的に理解した上で具体的な対応について学びます。また、認知症の BPSD の解決に向けた新規評価尺度である、認知症困りごと質問票(BPSD＋Q）とアルツハイマー型認知症の進行度を図る指標（FAST）についても触れます。
13:00～14:20（80 分）	ケアプランと介護記録との関連性と整合性	講義・演習	特養）幸豊の杜成香 小山施設長代理	ケアの現場においてアセスメントとケアプラン及びその記録の連動性が見られない場合が少なくない中で、ケアプランに基づいた記録の視点について、再度確認する。
14:30～16:00（90 分）	嚥下機能の仕組みと適切な食事姿勢・介助方法について	講義・演習	幸清会） 言語聴覚士 佐々木　聡	食べものを飲み込むとはどのようなことなのか理解し、どのように食事をすれば誤嚥を防げるのか、また、食事を介助する際にどのような姿勢、道具、環境でおこなうべきかを学ぶ。
２日目				
9:00～10:30（90 分）	身体拘束等の適正化と高齢者虐待防止	講義・演習	GH）みたらの杜 白井施設長	高齢者虐待防止法・身体拘束廃止の基本的理解を深めるとともに、施設内での虐待や不適切なケアを防止するために必要な取り組みについて学び、また身体拘束廃止に向けた実践的スキルの習得を図ります。

10:40～ 12:10(90 分)	リスクマネジメント 【苦情対応編】	講義・演習	DS ふる里の丘） 工藤所長	介護サービスを提供している中で苦情が発生する可能性は常にあります。この可能性をなるべく下げて苦情を未然に防止するポイントや発生時の適切な対応方法等について、事例をもとに実技演習を通して学びます。
13:10～ 14:40(90 分)	リスクマネジメント（事故防止編）	講義・演習	GH）来夢の杜　大宮 杉谷施設長	事故はいつ、どこで、起きるかわからず 100%防げるものではありませんが、減らすことは可能です。起こり得る事故をあらかじめ予想し、事故が起きないよう、日頃から「備える」リスクコントロールを中心に学びます。
14:50～ 16:10(80 分)	信頼関係を築くコミュニケーション	講義・演習	ふる里の丘総合福祉館） 鈴木施設長	私たちは、専門的な知識や技術のほかに高度なコミュニケーションスキルが必要です。利用者様だけではなく、ご家族様とも信頼関係を築くために、社会人として求められる接遇やマナーにおいて、今回は電話連絡に焦点を当て、事例・実践を通してポイント・注意点などを学びます。

研修の様子
令和 4 年度入社職員 5 名が参加。入社から 1 年が経過し改めて法人理念や認知症の対応力向上、リスクマネジメント（事故防止・苦情対応）や適切な食事介助方法等について学び、理解を深めていた。入社時はコロナの影響で ZOOM 研修が主であったが、今回は集合形式で開催することができ、実技演習主体の研修内容が多く、より実践的な研修となった。また日々の業務を振り返り、お互いに意見交換をすることで、新たな気づきにも繋げていた。